

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人の田を論ずる者、訴へにまけて、ねたさに、「その田を刈りてとれ」とて、人をつかはしけるに、まづ、道すがらの田をさへ刈りもてゆくを、「これは論じたまふ所にあらず。いかにかくは」と言ひければ、刈る者ども、その所とても、刈るべき理なければども、ひがごとせんとてまかるものなれば、いづくをか、刈らざらんとぞ言ひ

(吉田兼好「徒然草」より)

〔口語訳〕

他人の田を(自分のものと言って)訴訟で争った者が、訴訟に負けて、悔しさから、「あの田(の稲)を刈り取ってこい」と命じ、(幾人かの)人を(そこへ)行かせたところ、(その人たちが)手はじめに、途中の田までも刈り取りながら行ったので、(これを見た人が)「これは(あなたがたの主人が)訴訟なさっている場所ではない。どうしてこのように(刈り取るのか)」と言ったところ、その刈り取っている者たちが、「あの(訴訟になった)所(の稲)も刈ってよい道理はないけれども、(我々はどうせ)道にはずれたことをしようとして出かけるものなので、どこの田でも刈らないことがあろうか」と言った。(この)理屈は、なんともおかしいものであった。

問一 〔歴史的仮名づかい〕 文章中の次の言葉を、それぞれ現代仮名づかいに直して書きなさい。

- (1) つかはし ( ) (2) まづ ( )  
 (3) 田をさへ ( ) (4) 論じたまふ ( )  
 (5) いづく ( ) (6) をかし ( )

問二 〔会話文〕 原文中に、もう一か所、会話文として、「」をつけるべき部分があります。その部分を探し、初めと終わりの五字を抜き出しなさい。


問三 〔主語〕 線①②のうち、他の三つとは主語が異なるものはどれですか。記号で答えなさい。

問四 〔古語の意味〕 線①「ねたさ」の意味を表している部分を、口語訳の中から抜き出しなさい。

問五 〔口語訳〕 線②「ひがごとせん」の口語訳にあたる部分を、文章中から抜き出しなさい。

問六 〔係り結びの法則〕 線③「いとをかしかりけり」とは、何に対するなさい。

問七 〔主題〕 線④「いとをかしかりけり」とは、何に対する筆者の感想か。次から選びなさい。

- ア 悪い事をすればどんなによいことを言っても信用されないと  
 いう理屈。  
 イ 悪い事をするにしても、その限度は心得ておくべきであるという理屈。  
 ウ 悪い事をするのだから、それをどこでしようと同じことだと  
 いう理屈。  
 エ 悪い事をすれば、いつかは必ず世間に知れわたってしまうと  
 いう理屈。